

令和3年7月12日
都市整備局地域まちづくり課

令和3年度 ヨコハマ市民まち普請事業

1次コンテストで6提案を選考！

～2次コンテストへ向け発進～



令和3年7月10日(土)に「令和3年度ヨコハマ市民まち普請事業1次コンテスト」を開催し、8名の審査員による公開投票の結果、8グループの整備提案から **2次コンテストへと進む6提案が選考されました！**

選考されたグループは、令和4年2月6日(日)開催予定の2次コンテストに向けて、実現性や地域まちづくりへの発展性等が高まるよう提案内容を磨き上げていきます。



提案グループのプレゼンテーション



情報収集タイム



審査員との質疑応答

2次コンテストへ進む整備提案

【地域で繋がり、楽しむ！多世代・多国籍交流の新拠点】 まちとも 霧が丘(緑区)

団地の空テナントを活用し、多世代、多国籍交流拠点を整備。子ども食堂、日本語・外国語教室、買い物代行などを通じて助け合いのネットワークを創る場に。

【都筑ふれあいの丘「モヤ→キラ」コミュニティカフェ】 地域コミュニティ居場所づくり実行委員会(都筑区)

マンションの共用部に、コミュニティカフェや展示スペース、自由スペースなど、地域の方がふらっと寄れる居場所を整備。多世代交流、自立支援の場に。

【事業支援のためのローカルプラットフォームを構築する】 弘明寺リビングラボ(南区)

弘明寺商店街の近くに、地域の健康相談所、就労支援事業のための商品開発等を行うコワーキングスペース、食育イベントなどを開催するためのスペースを整備。

【新たな事業展開と柔軟な地域交流拠点の整備】 NPO法人史季の郷(鶴見区)

既存の歴史資料室・交流室を拡張し、地産地消カフェや交流サロン、子育て相談所などの多種多様な事業を展開できる拠点を整備。

【八景市場ANNEXー自らづくり, つながる場所】 食卓八景ーつながりのリビングをつくる会(金沢区)

空き家を再生しシェアハウスとした建物の共用部をまちに開放。縁側やお庭を整備し、誰もが気軽に立寄り、他者とつながることのできる地域の多世代交流拠点へ。

【イノベーションハブ「つまみ ゆいまー」の創出】 「結(ゆい)」つまみ実行委員会(鶴見区)

おきなわ物産センターなどが入るビルの空き室に、沖縄芸能や南米の文化体験、イベント企画のための集会所、地域の情報発信コーナーを整備。

今後の流れ（予定）

1次コンテストで選考された提案グループは、2次コンテストまでの間に、審査員及び過年度にまち普請事業で施設を整備し活動している先輩グループとの「活動懇談会」等を通じて地域での円滑な合意形成や提案を磨き上げるヒントをもらいながら、提案内容の「**創意工夫・実現性・公共性・費用対効果・地域まちづくりへの発展性**」を高めていきます。

活動懇談会

令和3年9月23日(木・祝)

審査員やまち普請事業の先輩グループと、より良い活動の展開に向けて話し合いを行います。



令和2年度活動懇談会の様子

審査員による 現地確認

令和3年10月30日(土)

審査員が提案内容をより深く理解するために、提案場所の現地を確認します。
提案グループからは活動状況の報告をしていただきます。



令和2年度現地確認の様子

2次提案書の提出

令和3年12月3日(金)

締切

2次コンテスト

令和4年2月6日(日)

検討を重ね磨き上げた提案を発表していただきます。
審査員との質疑応答を経て公開投票により助成対象となる提案が選考されます。

審査基準 ①創意工夫 ②実現性
③公共性 ④費用対効果
⑤地域まちづくりへの発展性



令和2年度2次コンテストの様子

施設整備の実施

2次コンテストで整備助成の対象として選考された提案グループには、令和4年4月～令和5年3月の間に施設の整備を行っていただきます。令和5年度には「整備成果報告会」を予定しています。

参考：ヨコハマ市民まち普請事業とは・・・

市民の皆様が主体となって行う地域の課題解決や魅力向上のための施設整備の提案に対して、支援、助成を行う横浜市独自の事業です。二段階の公開コンテストを経て選考された提案には、50万円～500万円の整備助成金を交付し、まちづくりを支援します。

お問合せ先

都市整備局地域まちづくり課担当課長

萩原 慶一

Tel 045-671-2665

ヨコハマ市民まち普請事業 整備成果報告会を開催します！



ヨコハマ市民まち普請事業の**整備成果報告会**を開催し、令和元年度・2年度のコンテストで選考された提案施設の整備成果や現在の活動状況を、各提案グループより発表いただきます。

今年度は一般参加を行いませんが、市民の皆様の身近なまちづくり活動の参考としていただくため、**YouTube によりLIVE 配信します**ので、ぜひご覧ください。

ヨコハマ市民まち普請事業とは・・・市民の皆様が主体となって行う地域の課題解決や魅力向上のための施設整備の提案に対して、支援、助成を行う横浜市独自の事業です。二段階の公開コンテストを経て選考された提案には、50万円～500万円の整備助成金を交付し、まちづくりを支援します。

整備成果報告会の概要

- 1 開催日時 令和3年9月23日（木・祝）9時30分～12時45分（予定）
- 2 内 容
 - 各グループによる整備成果の報告
整備提案のきっかけや、整備後の活動状況等についてお話していただきます。
 - ディスカッション
YouTube視聴者から寄せられたご質問について各グループが意見交換します。
ご質問の受付方法は当日YouTubeにてご案内いたします。

詳細はヨコハマ市民まち普請事業Webページ（イベント情報ページ）よりご確認ください。報告会当日にグループの報告資料も掲載します。

まち普請 イベント情報 [検索](#)

取材をご希望の方は、9月22日（水）12時までにお問合せ先へご連絡ください。
取材の方法等についてご案内させていただきます。



前回の整備成果報告会の様子

LIVE配信の視聴方法

YouTubeチャンネル「ヨコハマ市民まち普請事業」から視聴していただけます。

【配信時間】

令和3年9月23日（木・祝）9:30～12:45（予定）



←チャンネルはこちら！

↓こちらでも！

YouTube まち普請

[検索](#)

お問合せ先

都市整備局地域まちづくり課担当課長 萩原 慶一

Tel 045-671-2665

裏面あり

報告グループと施設の概要

下記のグループが、整備成果の報告を行います。

令和元年度整備

つみれかふえ
230cafe（鶴見区）
つみれプロジェクト実行委員会



【整備した施設】

ビルの2階でキッチン関係の設備や小上がり等の内装を整備。

【活動概要】

カフェやワークショップ、料理教室の開催により、地域の幅広い世代や、外国にルーツのある方など誰でも集いくつろぐことのできる「まちのリビング」を目指しています。

ふなだまりウッドデッキ（金沢区）
富岡並木ふなだまりgionbune公園愛護会



【整備した施設】

公園内に地元の木材加工業者と協力し、ウッドデッキを整備。

【活動概要】

環境を守る活動の拠点としてのウッドデッキ。高齢者が気ままに心遊ばせ、子育て世代が交流、学び、また歴史ある祇園舟神事の舞台等々、まちに無くてはならない装置に成長させます。

おもいやりハウス（南区）
NPO法人おもいやりカンパニー



【整備した施設】

空き家を改修。外構のバリアフリー化。内装は地域のボランティアとも協力し整備。

【活動概要】

買い物支援の「ママ・マルシェ」や子どもたちの学習支援、介護予防プログラムの実施等により、おもいやりの心をもって互助・共助のできるまちづくりを目指しています。

令和2年度整備

菊名みんなのひろば（港北区）

菊名・錦が丘にみんなの“ひろば”をつくる会



【整備した施設】

塀の撤去、地域の人たちの手によりウッドデッキや庭、スロープを整備。

【活動概要】

壁を取り払って地域に開かれたこのひろばで、カフェや駄菓子屋、LP鑑賞の会や無料塾、親子の会と、赤ちゃんから高齢者までの交流の場として地域住民が元気に活躍する拠点を目指しています。

いこっか
コミュニティカフェicocca（港南区）
NPO法人 icocca ひのみなみ



【整備した施設】

空き店舗を改修。外構にはスロープを整備。

【活動概要】

ランチの提供や小箱ショップ、季節の行事、ワークショップの開催等により、人と人がつながり、安心が増え、楽しく住みよいまちになることを目指しています。

みんなの絵本のおうち（泉区）
おはなしの風

【整備した施設】

鉄道高架下の建物で絵本棚等の内装を整備。

【活動概要】

誰もが楽しめるカフェの他、音楽と共に絵本を楽しむコンサートリーディング等、絵本を中心としたイベントによりみんなを絵本で笑顔にできる、「みんなの居場所」を目指しています。



整備事例集 vol.15

令和2年度整備事例集

私たちのまちを
私たちでつくる
きっとまちが好きになる



掲載事例

- ①コミュニティカフェの新設(港南区)
- ②カベを取り払ってみんなが自由になる「ひろば」づくり(港北区)
- ③みんなの絵本のうち(泉区)

ふーしん【普請】「普く請う(あまねくこう)」とも読み、「力を合わせて作業に従事すること」という意味が含まれています。
「公共」は行政によってのみ担われるものではなく、特に地域に根ざした身近な課題への対応などに市民の皆さんが主体的に関わることで、参加する人や地域に暮らす人々の満足感を高めることにつながっていきます。「まち普請」には、市民に身近な「まち」に「普請」の輪を広げていきたいという願いが込められています。

「ヨコハマ市民まち普請事業」とは

市民の皆さんが主体となって行う、地域の課題解決や魅力向上のための施設整備を伴うまちづくりに対して、支援、助成を行う事業です。
施設整備のアイデア検討やコンテストへのチャレンジ、地域の方々との合意形成、整備への労力提供などの機会を通じて、地域コミュニティが活性化し、地域まちづくりの輪が広がることを目的としています。

コンテストの年度

整備の年度

自ら主体となって
生活環境の整備を
したい市民グループ

4月上旬～6月上旬
整備提案募集

ヨコハマ市民まち普請事業部会による選考
(学識経験者・まちづくり実践者・市民委員(公募))

7月上旬
1次コンテスト
開催

9月
活動懇親会

1月下旬
2次コンテスト
開催

市民自ら
整備・維持管理を実施
整備助成金として
最大500万円を交付

横浜市地域まちづくり推進委員会

ヨコハマ市民まち普請事業部会委員(令和元年度選考委員) ※所属は令和元年度時点

- 杉崎 和久(部会長) 法政大学法学部教授(公共政策)
植松 満美子 市民委員(公募)
岡本 滙子 NPO法人さくら茶屋にしは理事長(まちづくり・市民活動)
加藤 功甫 市民委員(公募)
川原 晋 首都大学東京・都市環境学部教授(市民主体の地域運営・まちづくり市民事業) ※現在は東京国立大学
後藤 智香子 東京大学先端科学技術研究センター特任講師(まちづくり・住環境・子ども環境)
菅 孝能 (株)山手総合計画研究所代表取締役(都市デザイン・景観デザイン)
鈴木やよい NPO法人横浜市民アクト理事(まちづくり)

整備事例集 vol.15

令和2年度整備事例集



●発行

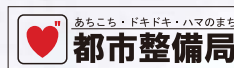
令和3年9月
横浜市都市整備局地域まちづくり課
〒231-0005 横浜市中区本町6丁目50-10 TEL 045-671-2679 FAX 045-663-8641

●編集・デザイン

横浜市住宅供給公社

●デザイン・印刷

山陽印刷株式会社



「まち普請事業」についてはホームページをご覧ください。
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/toshiseibi/suishin/machibushin/>



Webで検索 まち普請 検索

Facebook「ヨコハマ市民まち普請ひろば」もご覧ください。
<https://www.facebook.com/yokohama.machibushin>



Webで検索 まち普請ひろば 検索

コミュニティカフェの新設

～高齢化した街の力を引き出す新たな多世代交流拠点～



元台湾料理店を改修。オレンジのドアは日野南地区のお宅に多く植えられている夏みかんをイメージしている。

3人の発起人の1人、代表の池田さんは、介護福祉士として仕事をしている中で、「ただ誰かと話したり一緒に過ごしたりしたい」という利用者の求めに応えられない悩みを抱えていました。同じく発起人の杉山さんは、地区の民生委員会の会長で、高齢者が地域の中で気軽にしゃべりができる場所が欲しいと思っていた。2人は長らく住まいが隣で、互いの問題意識を話す中で、10年ほど前から地域にカフェがほしいと漠然と考えていたようです。

ます。きっかけは各々別々の方から「地域の子ども会をつくるのを手伝ってほしい」と相談されたこと。単に子ども向けではなく、親も地域の大人も一緒に楽しめることがしたいと考えた2人は「地域の子どもたちの絆を深める会」、通称「そうだー何しよう会」を立ち上げます。平成29年のことです。

もう1人の発起人である鳥海さんは保育士として働いていましたが、自身の初めての出産・育児の時に、子どもだけでなく親も含めてケアをしてくれる場所が少なく、にあらためて気付き、身近に親子の居場所をつくりたいと考えていました。

その後、日野南地区に引越してきた鳥海さんは池田さんと出会い



左側は小箱ショップ(棚ごとにレンタルし手作り品などを販売するスペース)で、「つながるマスクプロジェクト」がきっかけでレンタルした人もいます。床が様々な色の木材になっているのは、いろいろな人が集まって一つの場所になるというコンセプトを表している。

地域の中で場所を探し始めますが、個人の集まりではなかなか物件を借りることも思い切れません。そんな時、地域ケアプラザの職員からまち普請を紹介され、応募することにしました。ただ、それが応募締め切りの10日ほど前のタイミング。提案書は寝る間を惜しんで書いたそうです。

「カレー屋さんを通じてすでに連合自治会長ほか街のキーマンとのつながりができており、さらに池

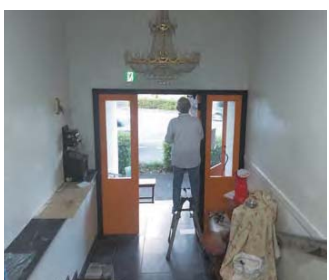
の思い出があり、食事と一緒にその思いも伝えられていきます。このように「コロナ禍でもできることをやりながら、並行してコミュニティカフェの整備にも取り組みました。壁の塗装は自分たちで手がけ、令和2年10月にオープンを迎えました。オープン後、12月までは予約なしではランチも食べられないほど盛況でしたが、年が明けて1月に緊急事態宣言が発出されます。特に高齢の方は感染を避けて外に出なくなつたので、ランチを休止せざるを得ず、お弁当の販売だけに切り替えました。一方で、親子の居場所が閉じてしまひ行き場のなくなつた子育て世代や、友達の家では遊べず放課後に集まれる場所を求めている小学生たちのために、状況を踏まえながら徐々に場をひらいていきました。現在もコロナ感染防止対策を講じながら、お年寄りから子どもまで地域の方々との居場所になっています。

と鳥海さん。「高齢者が安心してずっと住んでいたいと思うのと同じくらい、子どもが大人になつた時にこの街に住みたいと思えるようにできることを考えたい」と池田さん。2人を中心に、杉山さんはじめこの街を育ててきた方々に支えられながら、i-coccaはこれから先も世代を超えたつながりを紡ぐ場であり続けることと思います。



クリスマス会の様子。自然と多世代が一緒に過ごす場所になっている。

場所が見つかりコンテストも通過して、やっと「コミュニティカフェ」になり着手できると思っていた矢先に新型コロナウイルス感染症が本格化した、思うように活動ができなくなりました。そんな中、日野南地区でもマスク不足が深刻に。そこで、「つ



壁紙の張り替えや壁の塗装はメンバーに加え、近所の方も手伝ってくれた。

ながるマスクプロジェクト」と名付けて、まち普請をきっかけに発行し始めた広報紙「i-cocca(いっこか)通信」にて、地域で余っている布とマスクの縫い手を募り、地域の力を借りて布マスクを製作し販売会を実施しました。その他に、健康を考えた7種類の惣菜を提供するランチメニューを開発したことで、多くの小皿が必要になつたので、地域からお皿を寄付してもらうことにしました。その名も「旅するお皿プロジェクト」。集まった200枚以上の小皿にはそれぞれ以前の持ち主

「つながるマスクプロジェクト」がきっかけでレンタルした人もいます。床が様々な色の木材になっているのは、いろいろな人が集まって一つの場所になるというコンセプトを表している。



カベを取り払ってみんなが自由になる「ひろば」づくり 壁をなくすことで心理的な壁をなくした地域の拠点の新たなスタート

菊名駅から南に少し坂を上った
錦が丘の住宅街にある「菊名みんなのひろば」。道路から庭と縁側が見え、立ち寄ってみたいくなる空間です。
ここは、地域の様々な活動の拠点としてだけでなく、「お水飲ませてー」という学校帰りの子どもに、「子どもが寝ちゃって、少し休んでいいですか？」とこの子育てマ



菊名駅への往來の多い通りに位置する菊名みんなのひろば。

マなど、色々な人の立ち寄り場になつています。
錦が丘地区は「戸建てが多い閑静な住宅地です。長く住む人が多く、10年前から移動や買い物に不便を感じる人のために「ミニミティバスを走らせた」り、地域のために開かれた「ギャラリ」の名前をとって「弥平のついで」呼んでいる情報交換の会を開くなど、自ら町を住みやすいものにしていく、という動きが盛んなまちです。

ところが、駅に近いという利便性ゆえに、マンションが増え、近年環境が激変しています。新しい住民が増え、子どもも多いけれど、高齢化、孤立化もすすんでいます。新しい住民の方や引きこもりがちの方、サポートが必要かもしれない方たちとのつながりがないことに課題があると感じるようになった地域の人たちは、気軽に集まる場所があればと思っていました。しかし、この地域には公共施設がなく話をするにも集

まる場所がありませんでした。活動拠点が欲しいというのが地域の思いでした。

そこで、不動産業を営む植村さんは、一軒の家を提供しようとして申し出します。それを聞いた地域の人たちが集まり、ここでどんな活動ができるかをみんなで考えることに。平成31年4月に「新たな拠点つくりワークショップ」を行いました。その後も定期的に集まり、具体的に何をする



元あった壁を撤去して見た目にも入りやすくなった。

の議論を重ねました。その中で「子ども向けに駄菓子屋さんをやりたい」「ちよっとお茶が飲めるカフェ機能があるといい」「孤立しがちな高齢者、子育て世代を対象に地域の食堂を開きたい」など様々な希望が出てきました。まずは、拠点のお披露目を兼ねてバザーを開催したところ大盛況で、拠点について知る人が徐々に増えていきました。元々

は一般の住宅ということもあり、建物の外周が壁で囲まれ、その存在や活動の様子が分かりにくく、地域の方とのつながりが生まれにくい状況でした。住宅の塀を取り払い、玄關までスロープをつければ、もっと人を受け入れやすくなる」と話が

進み、その整備にまち普請を活用してはどうかと声が上がりました。そこで5月に申請を決めて、「菊名錦が丘にみんなのひろば」をつくる会」を結成し、6月に提案書を提出。すでに7月の1次コンテストに向けて準備が始まりました。メン



スロープを設置して車椅子の方も気軽に訪れることができるようにした。

バーでお揃いのTシャツを着込み臨んだ1次コンテストは無事に通過。しかし、急に整備に向けて動き出したことで近隣から少し不安の声がありました。そこで趣旨を理解してもらえよう、説明会を開催したり、個別に説明に回るなど、丁寧にコミュニケーションを取っていきました。また、催し物を実施する中で、地域の賛同者が着実に増えていき、見事に2次コンテストを通過しました。

整備を終えて、令和3年5月にお披露目を開きました。新たな拠点つくりワークショップ」から2年、「菊名みんなのひろば」として新たなスタートを果した拠点は、駄菓子屋やカフェなど、多様な活動の場所として活用されています。それぞれの活動者が「みんなのひろばをつくる会」として一体となって、つながりが生まれ、共同で場を盛り上げる機会も増えています。

コロナ禍であっても、工夫して活動を続けることで地域ケアプラザのサテライトになったり、地域住民らで企画された「近所文化祭」の会場のつになったり、拠点そのもの



整備したデッキは縁側のようにも使われている。この日は駄菓子を買った子どもたちの居場所に。

の役割も変わってきました。

小学生や中高生など若い世代も来るようになり、多様な出会いが生まれています。日常的にも「年配のミニミティバスの運転担当者が待機している横で、子どもを遊ばせながら母親同士がおしゃべりするなど、多世代が集う素敵な空間になっています。

植村さんは「地域の課題、人それぞれの思いなど、段階を踏んで、その先にまちづくりに関心を持たれるようになると思います。私もそうでした。そのためには議論の場が不可欠で、ひろばの存在意義は「語る場」を提供することだと思います」とおっしゃいます。その言葉の通り、ひろばからまちづくりにどんどん

広がっています。

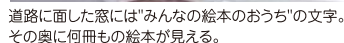
「みんなのひろばをつくる会代表の清水さんは、駄菓子屋もカフェも、地域のつながりをつくるためのツールです。施設が提供され、さらにまち普請によって、物理的な壁を取り払ったことで、より利用しやすい場所になり、多様な人が集まってきて、心理的な壁のみならずいろいろな「壁」も取り払うことができています」と言います。

カベを取り払った一軒の家が生まれ出すエネルギー、これからも展開が楽しみです。



人をつなぎ、可能性を引き出す絵本のエネルギー溢れる拠点

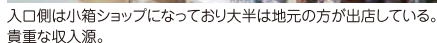
この場所を運営するおはなしの風の中心メンバーの森川さんと松本さんは、子育てに悩んだ時に、絵



2人のコンサートリーディングを聞いた人たちが多く来てくれましたが、地元の泉区の利用者がなかなか増えず3年ほどが経ちました。駅から少し離れている上に、急な外階段から入る不便さ、5人入ると身動きが取りづらくなる狭いスペースに、2人は「もっと多くの人が来やすい場所があれば」と思い始めまし

これまであまり地域の活動に携

も幸せになり、地域に幸せが広がっていくことを力説していきました。実際に「コンサートリーディング」を体験すると、多くの人たちが共感し、中でも地域ケアプラザや社会福祉協議会の職員は、絵本の持つ力、特に子育て中の母親たちへの貢献が、大きいことを理解し、賛同者が増



コンサートリーディングをはじめ、定期的に絵本を使ったイベントも行っている。

松本さんの希望でランチの提供

棚には約1,500冊の色とりどりの絵本が並んでいる。

関わる人だけでなく、主催者も変えていく拠点の力。これからも、想定外のこと、が沢山生まれそうです。

